

(参考情報)

事項	草刈りの有無がりんご園の土壌水分に及ぼす影響		
ねらい	近年乾燥遭遇年が増加しており、こまめな草刈りを指導している。しかし、草刈りマルチと土壌水分に関する県内試験報告は少ない上に近年の報告がなく、現場からはその既知情報の信頼性に疑念を持つ声も少なくなかった。そこで確認試験を行ったところ、草刈りマルチが水分保持に有効である確認が得られた上、状況により水分損失抑制量にやや差異があることも新たに明らかとなったため、参考に供する。		
内容	<p>1 草高 5 cm程度で草刈りし、その刈草を土壌被覆した区（草刈り区）と除草を全く行わない区（無除草区）を比較した場合</p> <p>(1) 土壌水分が適正～やや乾燥状態（pF1.5～2.5程度）の時 草刈りマルチをすることで、表層土壌（30cm深）の乾燥がやや緩和される。</p> <p>(2) 土壌水分が乾燥状態（pF2.7以上）の時 草刈りマルチをしても表層土壌（30cm深）の乾燥は緩和されない。</p> <p>2 以上から、草刈りマルチは水分保持に有効であり、また土壌が著しい乾燥状態になる以前から定期的に草刈りマルチをしておくことが、土壌水分を保つ上で重要である。</p>		
期待される成果	指導上の参考となる。		
利用上の注意事項	本試験は、乾燥しやすい土壌における結果である。また、試験園地の繁茂草種はクローバーとケンタッキーブルーグラスで、無除草区の草高は20cm程度で推移した。		
問い合わせ先（電話番号）	りんご研究所 栽培部（0172-52-2331）	対象地域	県下全域
発表文献等	平成27年度 試験研究成績概要集（りんご）（りんご研究所）		

【根拠となった主要な試験結果】

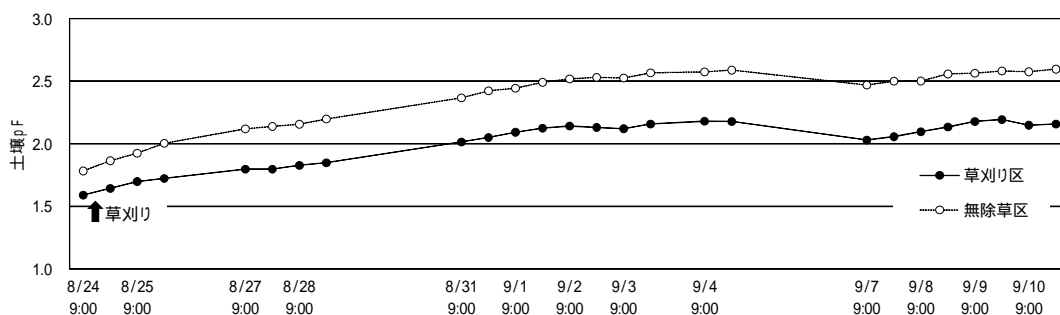


図1 土壌水分適～やや乾燥時における草刈りの土壌水分保持効果（土壌pF値推移）  
（平成27年 青森りんご研）

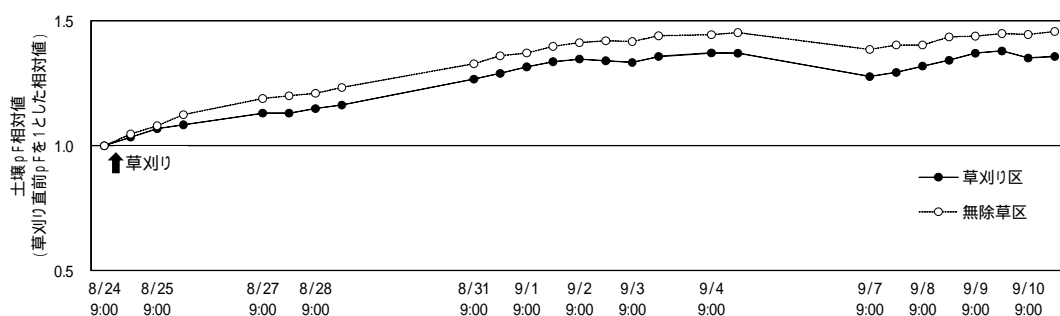


図2 土壌水分適～やや乾燥時における草刈りの水分保持効果（土壌pF相対値推移）  
（平成27年 青森りんご研）

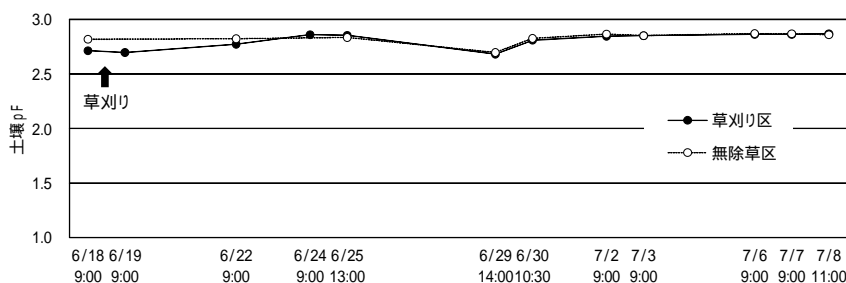


図3 土壌乾燥時における草刈りの水分保持効果（土壌pF値推移）  
（平成27年 青森りんご研）

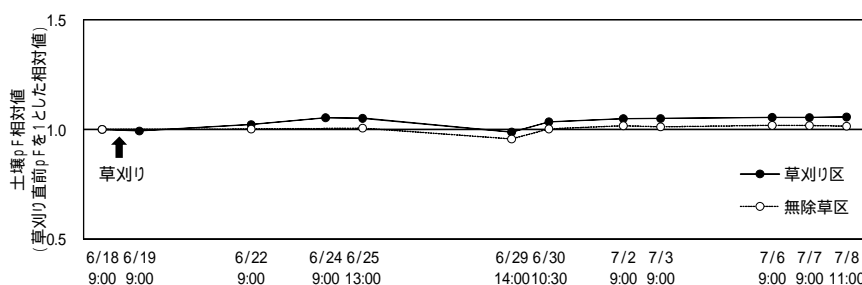


図4 土壌乾燥時における草刈りの水分保持効果（土壌pF相対値推移）  
（平成27年 青森りんご研）